“工程進捗の見える化システム”活用による遅欠品防止の取り組み

岩城賢治*
村瀬友行*

Shortage Prevented by Visualization of Process Flow

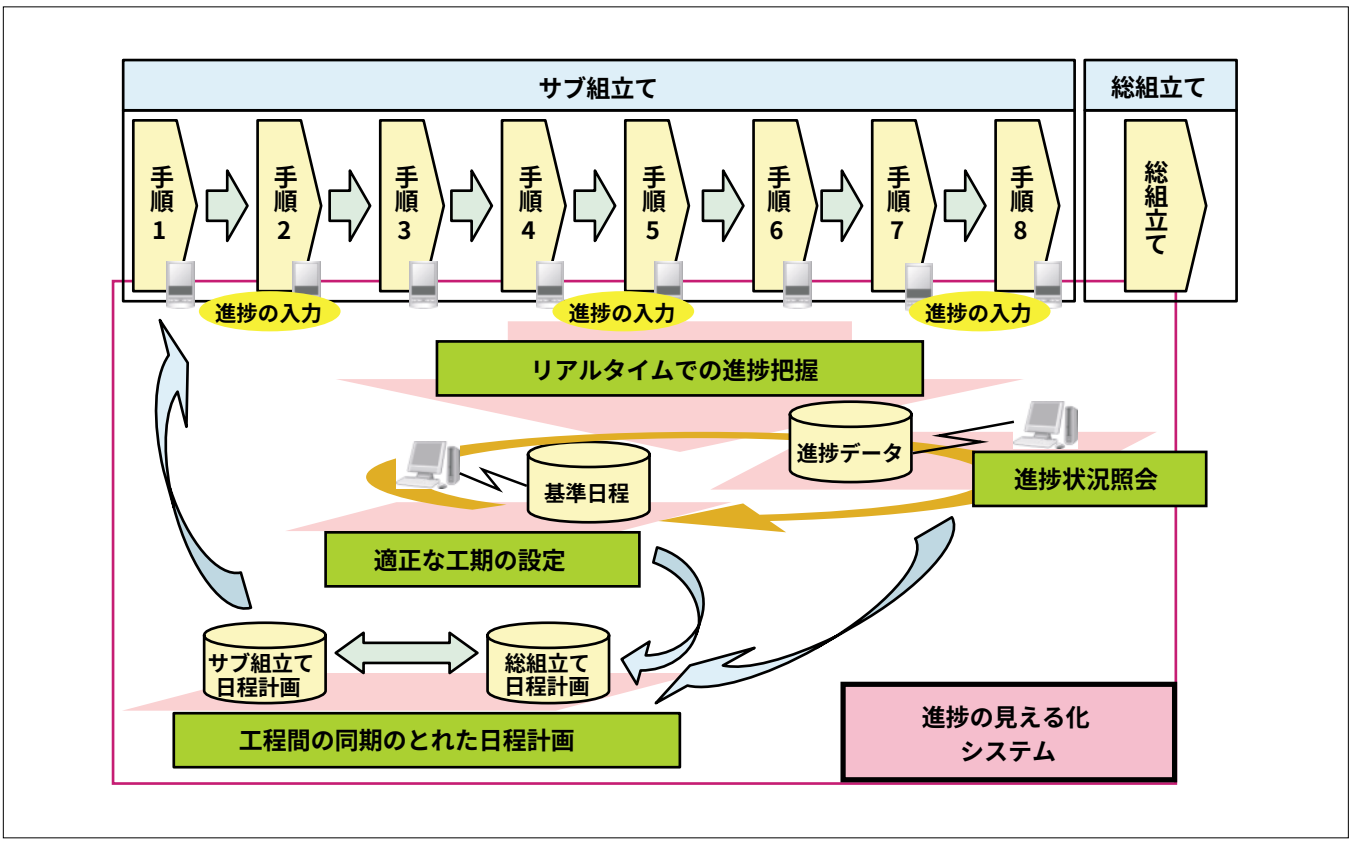
Kenji Iwaki, Tomoyuki Murase

要　旨

近年，三菱電機では，需要拡大に対応した生産能力の増強と現場改善活動による生産体力の強化によって，製品供給力の向上を進めてきた。しかしながら，急激な事業変化・生産規模の増加を背景に，飛び込み受注への対応として緊急オーダー受注や着手作業順序の入替えが頻繁に発生し，サブ組立てと総組立て工程との間で同期化が図れず，所内製造部品や購入品が納入期日に間に合わず，欠品の発生(以下“遅欠品”という。)が考えられる。

特に，車両機器事業は，海外案件の増加だけでなく，経年からの電鉄車両の切替(リプレース)のための国内需要の増加も加わり，生産規模の増加や受注案件の組換えが著しく，遅欠品状態がより顕著になることが予測され，製造現場への対策が急務であった。

そこで当社では，生産設備の増強による能力アップだけでなく，遅欠品の発生要因に着目し，サブ組立て工程の作業指示や工程進捗(しんちょく)のリアルタイム把握を行うといった生産方式・生産管理方式の見直しと，それをサポートする情報システム“工程進捗の見える化システム”を構築して，遅欠品防止に取り組んだ。今回，この車両機器事業での改善事例について述べる。



“工程進捗の見える化システム”の概略

リアルタイムでの工程進捗情報の収集機能と状況照会機能によって“進捗状況の見える化”を行うとともに，作業手順別の工期(基準日程)を基に，工程間の同期のとれた作業手順別の日程計画を策定する。

*情報システム技術センター